

双葉の復興、歩いて巡る

震災16年目

NPO法人日本トレッキング協会の特別企画「東北復興トレイルを歩く」が16日、双葉地方で始まった。首都圏からの参加者が沿岸部の「ふくしま浜街道トレイル」を散策し、東日本大震災と東京電力福島第1原発事故から15年の歩みや復興の息吹を感じ取った。

協会は、三春町出身で登山家の故田部井淳子さんがかつて会長を務め、本県と縁が深い。副会長の佐藤雄二さん(72)＝東京都目黒区

＝は昨年10月、富岡、楡葉、広野3町で開かれた「ふくしま浜街道トレイルウォークinとみおか・ならは・ひろの」(福島民友新聞社の主催)に参加した。その

日本トレッキング協会企画



J R双葉駅前を出発する参加者＝双葉町

「福島忘れないで」きっかけ

際、県内の参加者から「復興途上の福島を忘れないでほしい」と声をかけられたことがきっかけとなり、震

災と原発事故から15年の節目に合わせて企画した。参加した15人は、NPO法人ふくしま浜街道トレイ

ルアソシエーション(楡葉町)の中島悠二さんの案内で、双葉町のJ R双葉駅前を出発。東日本大震災・原子力災害伝承館を見学し、県復興祈念公園や浪江町の震災遺構「請戸小」、請戸漁港などを歩いて巡った。

佐藤さんは元海上保安庁長官で、昨年から7回本県を訪れた。「東京で生活していると分からないが、現地を歩くことで見えてくるものがある」と印象を語り「地域との交流も楽しみ。これからも福島を応援したい」と笑顔で歩を進めた。最終日の17日は柏澄子会長が加わり楡葉、広野両町を訪れる。